

宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

ご支援に感謝して

第3回拡大世話人会開催／北京から王丹丹さん出席

□ 河北省易県に3種の奨学金設立—報告 □ 農山村の母子保健と学齡前保育への協力—提案

昨年12月1日、八王子市クリエイトホールにて当会第3回拡大世話人会が、世話人・維持会員36名の出席のもとに開催された。

「辛亥革命(共和制中国の誕生)90周年に因み、その指導者孫文と夫人宋慶齡が中国の近代化への努力の中で、常に『ヒューマニティーと合理性』の追求を目指していた。私たちも日中友好のための活動と会の運営に、『ヒューマニティーと合理性』のバランスを大切にしていきたい」

との久保田代表の挨拶のあと、第1期(2000年・2001年)のプロジェクトの経過と成果及び財務報告が行われ、次いで第2期(2002年・2003年)の事業計画が提案された。

報告の中から

まず、プロジェクトIのハルピンの東北農業大学幼稚園の園舎増設支援が幼児芸術センターとして落成し、結実したことが報告された。また、小中学生及び職業技

(中面につづく→)

日中国交回復30周年に寄せて

『宋慶齡』の著者 I. エプシュタイン氏にインタビュー

「日本の友人に少しお話いたします…日中友好は、長期間かかる一つの大きな建築だと思いません。宋慶齡は中日友好の代表者であると言えます。もちろん戦争中の日本の侵略には断然反対しました。」

「若い頃の彼女には、中国革命を助けてくれた日本の友人が沢

山いました。中日友好は、一代で成し遂げられることではありません。衝突は一時的なもので、避けるべきです。」

「友好を長く続けるためには、中日双方とも努力しなければなりません。日本における宋慶齡基金会の事業を支えてくださっている日本の友人たちに大変感謝しています。

これは、とても重要なことです。両国は隣同士で、文化も悠久な繋がりを持っています。」

I. Epstein

爱泼斯坦 2001.5北京

インタビュー・翻訳及び撮影：
井岡 今日子

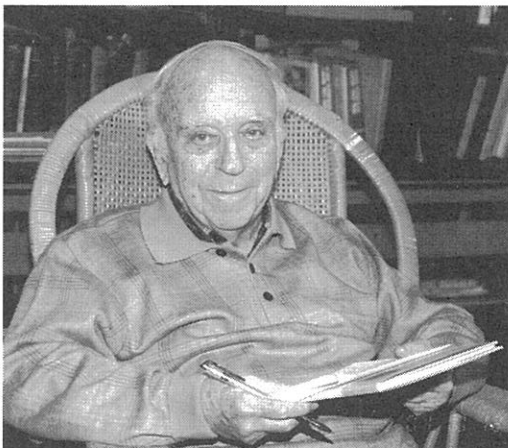
●イスラエル・エプシュタイン氏は、本来中国革命を世界に報道した国際ジャーナリストとして知られている。1938年、宋慶齡女史と広州で出会い、「中国を助けよ」と世界に訴える同女史の保衛中国同盟の活動を助け、日中戦争の終る1年前、内外記者団の一人として延安を訪問、毛沢東・朱徳・周恩来等と会見、中国の未来は延安にありと感じ、新中国の胎動を伝える多くの記事を世界に発信した。1944年末-51年初の6年間、米国に滞在して『中国未完成的革命』等の大著を出版。1951年、宋慶齡女史の強い要請に応じて、新中国に戻り、雑誌『中国建設』編集長として活躍。

●1957年、中国国籍取得。

●1915年ポーランドのワルシャワに生まれるが、ナチスの迫害を逃れ、日本・神戸を経て中国に父母とともに亡命。初め、ハルビン、天津等に住んだ。

●現在、中国人民政治協商会議全国委員会常務委員、宋慶齡基金会副主席等。

●『宋慶齡』は、日本では久保田博子訳『宋慶齡—中国の良心・その全生涯』として、1995年、サイマル出版会より刊行。



術学校学生就学支援奨学金については、これまでの吉林省永吉経済開発区のほか、新たに河北省易県において、小学生250名に年額一人1,000円(半年分の教科書代)、女子中学生50名に年額一人3,000円(柳田奨学金)、職業技術学校生50名に年額一人3,000円の奨学金を3年間継続して給付することになり、すでに実施されていることが報告された。柳田奨学金は、中国宋・元代史研究の大家で、日本における中国女性史研究の指導者柳田節子氏のご寄付を基金とし、特に女子の就学を支援するものであるが、今後基金の増額に多くの方々のご参加(指定寄付)下さることを期待している。

図書コーナープレゼントについては、“为了明天”2号紙上で報告の7ヶ所のほか、河北省興隆県図書館と同省易県東羅中心小学校に寄贈された。1口1,000円の寄付が多くの方々から寄せられ、寄付総額は126万円に達し、54万円を第2期寄贈分に繰り越すことができた。図書を備えられない学校がまだまだ多く、図書寄贈の意義は大きい。

教育支援プロジェクトで注目されるのは、寧夏回族自治区における京友会及び330-A地区(東京)ライオンズクラブのそれで、この1年間に、女子中学校1校、小学校2校の校舎建設支援を鉄筋コンクリート2,3階建てで実現し、さらに小中学生に総額400万円の5年継続の奨学金を開設したことである。また代々木ライオンズクラブは、寧夏的女子高等教育支援で5年目を迎えている。

第2期事業計画より

プロジェクトIには、「母子保健及び幼児教育支援交流」が新たに提案された。

母子保健支援は、上海宋慶齡基金会の事業に対する協力で、「生命工程」と称されている。自然環境が厳しく、文化・経済条件に恵まれない山村では、妊産婦・胎児及び乳幼児の死亡率が極めて高い。妊産婦・新生児に関わる適切な衛生指導・医療が実施され、助産施設が整えば、多くの生命が救われる。そのため、助産医養成基金(8万円/1名)、助産院建設基金(80万円/1ヶ所)等を募集するもので、2001-2005の5年間を目標達成の期間としている。

幼児教育支援では、山村の学前班(小学校における学齢前児童学級)の充実に対する協力が提案された。現状は、小学校の1教室で小学校教員あるいは代用教員が1年生の古い教材を使って学齢前児童の指導を行っているが、これを学齢前幼児にふさわしい内容、指導システムに整えることを目指すものである。



易県の学前班の子どもたち

〔これについて、最近、中国宋慶齡基金会より新しい情報と提案があった。河北省保定市易県教育局では、いくつかの学前班をまとめて幼稚園を建設することを決定、最初のものとして四つの郷の幼児約100名からなる流井郷中心幼稚園の遊具・運動用具等30点の備品についての協力要請があった〕

プロジェクトIIの奨学金支援については、第1期より継続のものほか吉林省永吉第7中学校(農村)の窮状の訴えに應えるために、年額3,000円50名の就学支援奨学金を新たに設けることになった。第2期奨学金給付総額は、170万円を予定している。

プロジェクトIII、図書コーナープレゼントは、今期寄贈目標は20セット、総額160万円を予定。河北省易県の小中学校や図書館のほか、ご支援の皆様のご希望で寄贈先を決めることも可能である。

プロジェクトIVの寧夏教育支援は、京友会の新華詞典・現代英中中英詞典の配布及び小中学生奨学金給付、代々木ライオンズクラブの短大女子学生奨学金等で継続される。

プロジェクトVの「中国への理解を深める活動」では、苦学の中で故郷の教育支援に取り組む内モンゴル留学生との交流イベント、中国料理講習会や中国現代史講座の企画が提案され、承認された。

最後に世話人、監事、顧問を推挙、承認の後、代表に久保田博子を選任した。



←北京より参加の王丹丹さん

事業経過報告 2001年1月1日～2001年12月31日

寄 付 金	前期繰越	当期募金額	累 計 額	事業実施額	現在積立額
プロジェクト-1 (幼稚園建設)	3,840,000	1,495,000	5,335,000	5,150,000	185,000
プロジェクト-2 (奨学金)	194,000	1,656,000	1,850,000	774,000	1,076,000
プロジェクト-3 (図書コーナー)	621,000	639,000	1,260,000	720,000	540,000
プロジェクト-4 (学校建設 ライオンズクラブ)	400,000	16,154,000	16,554,000	16,194,000	360,000
合 計	5,055,000	19,944,000	24,999,000	22,838,000	2,161,000

河北省 訪問

8/22、朝まだ台風の影響がある中リムジンバスに乗り、はらはらしながら成田へ着きました。北京に着くと抜けるような青空と輝く太陽に迎えられホッとしました。目に痛いほどの光に囲まれ(アー中国に来たんだー)と実感しました。

その夜のユネスコ子ども芸術祭では、中国、モンゴル、韓国、朝鮮民主主義人民共和国、マカオの子どもたちに混じって、日本の子どもたちも獅子舞など発表していました。きっと交流会や、楽屋では国の壁なく話し合っているのだろうなと思いをめぐらせました。子どもたちは友だち作りの天才ですから、アジアの文化の交流は、お互いを理解する上での大きな役割を果たしていると思えました。モンゴルの馬頭琴と歌声(低く高く、



しびれるような心にひびく声)には感動しました。

翌23日は、いよいよ学校訪問です。子どもたちとの出会いをとっても楽しみにしていたのが実現する日でした。東羅中学校に着いてからは無我夢中でした。夏休みというのに300人近くの人が集まってくれました。算数の授業も見せて頂き、心こもるもてなしを受け本当に嬉しかったです。くると回る馬の折り紙をみんなで折ったときの事は忘れられません。写真を撮ることも忘れ、一緒に折りました。「上手!すごい!」と拍手すると不思議そうに眺めていた子どもが終わりごろには席を立てて「ここはどうするの」と聞いてくれた時は本当に嬉しかったです。心が少し通った!と思えました。

人と人との出会いのすばらしさを味わえた中国の旅、この旅の前、また旅の間いろいろ教えて下さったJCCの皆さん本当にありがとうございました。10月には教員組合(八教組)の教育研究分科会で内モンゴルの方をお招きすることができたのもこの旅のおかげです。謝謝。

第2次訪中団長 牧野 一恵

このつぎは、 より多くの幼児のために 支援と交流を...

ハルピン幼稚園、西安老人ホーム訪問・交流の旅は、参加者8名と通訳の計9名で予定通り全員元気で楽しい有意義な旅でした。皆様からの浄財のおかげで、東北農業大学幼稚園園舎増設支援が思いのほか立派な幼児芸術センターとして結実し、このたび、さらに一階に絵本のぎっしり詰まった図書コーナー、園庭に大型遊具を寄贈できましたことを報告させて頂き、心より感謝申し上げます。



同幼稚園では、二階の多目的ホールで民族舞踊のレッスンを参観し、平均年齢22歳のきびきびとした教師たちから保育・教育の方針やカリキュラムについて説明を受けました。

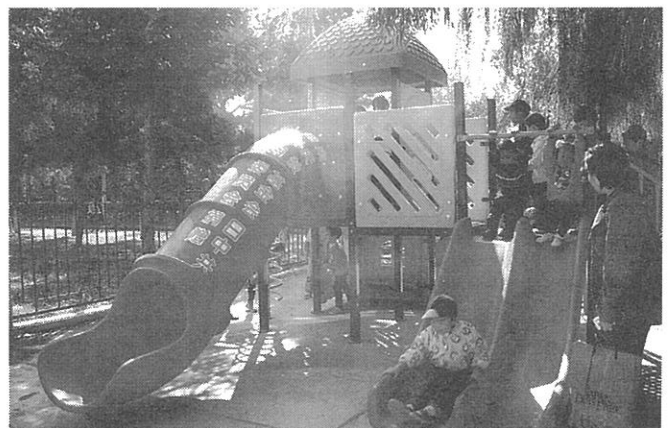
さて、幼稚園建設支援のプロジェクトは、確実な第一歩を踏み出すことができました。本当は、貧しい地区に小さな託児所でも、という思いもありましたが、まずは、先方の要望に応じて、モデル的実験的幼稚園作りに協力したわけです。このプロジェクトの今後については、陝西省宋慶齡基金会から園舎建て替えに伴う支援要請もありますが、昨年12月の拡大世話人会で農山村の学前班の充実に協力することになっています。

ハルピンの東北農業大学幼稚園や北京の宋慶齡培華

幼稚園のように恵まれた幼稚園に、果してどれだけの子ども達が入園できるのか、はっきりしたことはわかりません。西安の老人ホーム愛心楽園でも、職員、周辺地域の家庭の子ども達のために幼児施設を作りたいとの園長の話がありました。

ささやかな団体ですので、大きなことは出来ませんが、続けることに意味があると思いますので、皆様のご意見を伺い、良い知恵を出し合って、本当にそれを必要なところに、必要な手を差し伸べられるように、このプロジェクトを継続し、発展させて行きたいと思っております。また、作る支援だけでなく、お国柄によって違う保育内容や評価を理解し合えるような交流の機会を作っていきたいものと思います。

第3次訪中団長 須藤 雛



寄贈した遊具

【2001年】

- 8月11日 第24回事務局会議
- 8月22日～8月26日 第2次訪中団 (JCC&八教組女性部)
教育支援・交流の旅
- 22日 東アジア子ども芸術祭(北京)に参加
- 23日 河北省易県に3種の奨学金を開設——教師・児童生徒と交流、東羅小学校に図書を寄贈、宋慶齡基金会 愈副主席等と懇談
- 24日 河北省興隆県図書館に図書を寄贈、日中戦争資料室を参観
- 25日 承德・清朝離宮を参観
- 26日 盧溝橋抗日記念館を参観、宋慶齡故居参観
- 9月 8日 第25回事務局会議
- 9月22日～9月28日 第3次訪中団：ハルピンの幼稚園・西安の老人ホーム訪問・交流の旅
- 23日 七三一部隊陳列館参観
- 24日 東北農業大学幼稚園訪問・交流：大型遊具、図書コーナー寄贈
- 26日 西安老人ホーム愛心樂園訪問・交流：団長よりリハビリ器具一式寄贈
- 27日 宋慶齡故居参観、宋慶齡基金会愈副主席等と懇談

- 10月17日 八教組教研集会で、易県での教育交流について報告
- 10月20日 第26回事務局会議
- 11月12日 都庁でNPO申請についての第1回相談
- 11月14日 231万円送金：330-A地区 LC奨学金、関橋小学校建設関係 京友会新華詞典配布関係
- 11月17日 黄華前主席夫人何理良女史を迎え懇親会
- 11月18日 第27回事務局会議
- 11月27日 70万円送金：吉林省・河北省におけるJCC奨学金
- 12月 1日 第3回拡大世話人会：北京より王丹丹さん出席
- 12月 3日 八王子市立由井第一小学校で授業参観
- 12月 4日 八王子市立川口小学校参観、社会福祉法人東京玉葉会からまつ保育園参観・懇談会、同青陽園参観
- 12月 5日 明星大学で講演(王丹丹さん)
- 12月24日 第29回事務局会議
- 【2002年】
- 1月 8日 井岡今日子さん、易県で奨学金授与式に参加、及び学前班関係調査
- 1月19日 第29回事務局会議
- 1月21日 36万円送金：東京代々木LC奨学金
- 1月30日 25万円送金：易県最初の幼児教育施設一流井郷中心幼稚園(3月開園)に遊具・運動用具・絵本等教材設備30品目を寄贈
- 2月13日 都庁でNPO申請についての第2回相談
- 2月16日 第30回事務局会議
- 2月23日 “為了明天” 第4号発行

寧夏の子ども達から

330-A地区ライオンズクラブへのお礼状

私を復学させてくれた皆さまのご支援に感謝いたします。

私の住む山村は旱魃が続き、年々土地のアルカリ化が進んで、ろくな収穫がありません。

私は学校に行けず、家が貧しく、ただ呆然と悲しむしかなかったその時、皆さまのご支援により、また級友と共に学び、遊ぶことが出来るようになりました。これはとても嬉しい事です。

寧夏固原県老庄小学5年 李 秀梅
2001年12月25日

皆さまは私達に学習用品を下さり、高く大きな校舎を建設してくださいました。私達の学業を支援して下さった皆さまを、私は決して忘れません。私達はこの校舎、学用品をととても大切にしています。私達が困難な時に支援してください、感謝しています。

日本の皆さまは私達に喜びをもたらしてくださいました。皆さまの思いやりは、ぼろの土壁の建物を高くて大きな建物に変えました。皆さまの援助により、私達は新校舎で勉強できます。

老庄小学4年 楊 佰明
2001年12月29日

日中交流

マア

馬さんの中国家庭料理 講習会

毎年、春節(中国のお正月)のころに中国の方々と一緒にぎょうざを作る会を開いておりました。今年は少し変えて、家庭料理の講習会を開催いたします。

講師は中華料理本職の調理師、馬長安さん(八王子在住)です。日常会話の中国語も交えて、手作りのお料理で楽しいホームパーティーを開きたいと思います。ご希望の方は下記にお電話を下さい。

ごまだんご、春巻、炒飯、スープ、杏仁豆腐

日時：3月10日(日) AM11時よりPM4時まで
会場：八王子市子安市民センター(JR八王子駅南口10分)
TEL.0426-46-1220

会費：1,500円(留学生無料) 先着40人
講師：馬長安さん(揚州出身・1級調理師)

■連絡先 事務所：T/F 0426-46-4210(留守電)
荒 川：TEL 0426-61-2107(夜間)

編集 後記

2002年の早春、寒風の中で水仙やパンジーの花が咲き、梅の花も開きはじめた。中国は賑やかな春節の頃だが、ハルピンはまだまだ寒い氷燈祭かしら…などと想いを馳せていると、訪中の旅で出会った子ども達の可愛い顔がずっと浮かんでくる。空を飛ばばひと飛びの、遠くて近いお隣りである。お互いに、歴史を学び、一層友好の手をさし延べ合いたいと思う。熱いパワーのせい、一同風邪も引かず、「為了明天No.4」発行の作業に励んだ。皆様のご健康を祈りつつ……三浦克子

「為了明天」No.4

題字：周 肖
2002年2月23日発行 編集：三浦・井上
発行者：宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会
〒192-0081 東京都八王子市横山町20-8
TEL/FAX0426-46-4210
郵便振替：00170-2-152423
三和銀行八王子支店(普通)5182198